

巨木の所在とその特性

— 全国および富山県 —

本多啓七

はじめに

昭和57年(1982)には富山県の要請で「富山県緑化地図」を作成し、それと同時に、この地図の解説書を「富山県における天然記念物指定植物と代表的植物群落の分布及びそれらの特徴」と題して、富山県生物学会の第23号に発表した。さらに1988年の富山県生物学会の第28号に「巨木・名木とその特性—全国および富山県—」と題して発表して、次にあげる項目内容について強調した。①全国各地にあげられている老樹・名木にはどんな樹種があって、日本の生態分布からの位置、時間的な変動を辿って、現在の環境状況を明確にする。②老樹・名木を通して、日本民族の深層心意を掘り起し、その特性を明確にする。③今後、老樹・名木と市民が如何に一本化して住みよい、豊かな環境づくりを行うべきかについて提言する。先般ははからずも環境庁自然保護局による第4回 自然環境保全基礎調査要綱 巨樹・巨木林調査について、富山県の要請で、富山県各地の巨樹・巨木林の調査を行って、その実態を深めることができた。

なお、全国の調査結果についての概要が環境庁自然保護局から最近発表され、この方面の関心が一層高まってきた。近くは、読売新聞社が国際花と緑の博覧協会との共催で「新・日本名木百選」を予選するにあたり、「新・とやま名木十選」の選定委員に、県山林種苗協同組合理事長の加茂正三氏、県農地林務部長の島田宜剛氏、読売新聞富山支局長の日野静司氏と小生は県自然保護協会副会長兼事務局長の肩書きで、4名が全県下から応募された173点の中から厳しい審査の結果10点を選定するなど、この方面の責任の重大性を強く感じている。なお、昨年の秋、兵庫県で第1回「巨木を語ろう全国フォーラム」が行われ、次のようなフォーラム宣言が行なわれた。①悠久の歴史を見つめてきたかけがえのない巨木を尊び、愛し、力を合わせ守り育て、そして、子孫に引き継ぐ努力をします。②巨木を守り育てる心は、幼いころから養うことが必要であり、家庭、学校、社会などあらゆる場で教育や啓発活動を実施します。③一本の巨木だけでなく、それを取り巻く動植物も大切であり、巨木周辺の環境全体を大切にします。④私たちの貴重な財産である巨木を守り育てるため、全国民が参加する「森づくり運動」を積極的に支援します。⑤巨木を守り育てる活動を強化するため、これからもこのフォーラムの開催に協力し、交流活動を積極的に推進します。とのことが力強い拍手で確認された。新年度は島根県隠岐島で、再来年度は石川県で開催され、巨木に対する民間団体の盛り上がりが高まってきている現況である。

1. 環境庁調査の巨木基準と測定要領

これからも新しい巨木を発掘するため、その調査基準を統一しておくため、環境庁が実施した巨木基準と測定要領を会員各位に紹介することにする。

1) 調査対象基準

「地上から約 130 cm の位置での幹周が 300 cm 以上の樹木。なお、地上から約 130 cm の位置において幹が複数に分かれている樹木の場合には、個々の幹の幹周の合計が 300 cm 以上であり、そのうちの主幹の幹周が 200 cm 以上のものとする。

2) 測定要領

(1) 樹種名・樹種コード……樹種名及び樹種コードとして植物目録（1987年環境庁）の標準和名及び整理番号を調べて記す。

なお、調査票（別紙 1-1）の「記入上の注意」では、樹種コードは記入する必要がないこととされているが、これは現地調査に際してのことであるので注意すること。

(2) 幹周……調査票（別紙 1-1）には幹周の合計及び主幹の幹周（最大の幹）を記入する。

また、当該巨樹が斜面に生育している場合には、山側の地上から約 130 cm の位置で測定するものとする。

但し、測定が危険である等やむを得ない場合には、既存データを用いてもよいものとするが、この場合には必ず調査票（別紙 1-1）に、①実測によりがたい理由、②使用データの名称、③使用データの調査者名、④使用データの調査年、⑤使用データの幹周測定位置（地上高）を明記のこと。

(3) 樹高……樹高をメートル単位で測定する。但し、実測が困難な場合には、目測でもよいものとする。

(4) 枝張……樹冠の広がり、東西方向及び南北方向それぞれについて測定する。なお、当該巨樹が斜面に生育している場合には「等高線に平行方向」及び「等高線に垂直方向」それぞれについて測定する。また、実測が困難な場合には、目測でもよいものとする。

(5) 株立状況……幹周を測定する位置（地上から約 130 cm）での株立ちの本数を調べる。なお、調査票（別紙 1-1）記入に際しては、5 本以上の場合には、全て「5」と記入する。

(6) 巨木の欠損と状況

- ① 無
- ② 大枝枯損……主幹から分岐した枝（大枝）が枯れ又は折れている場合。
- ③ 小枝枯損……大枝から分岐した枝（小枝）が枯れ又は折れている場合。
- ④ 頭頂部幹折れ……主幹の頭頂部が折れている場合。

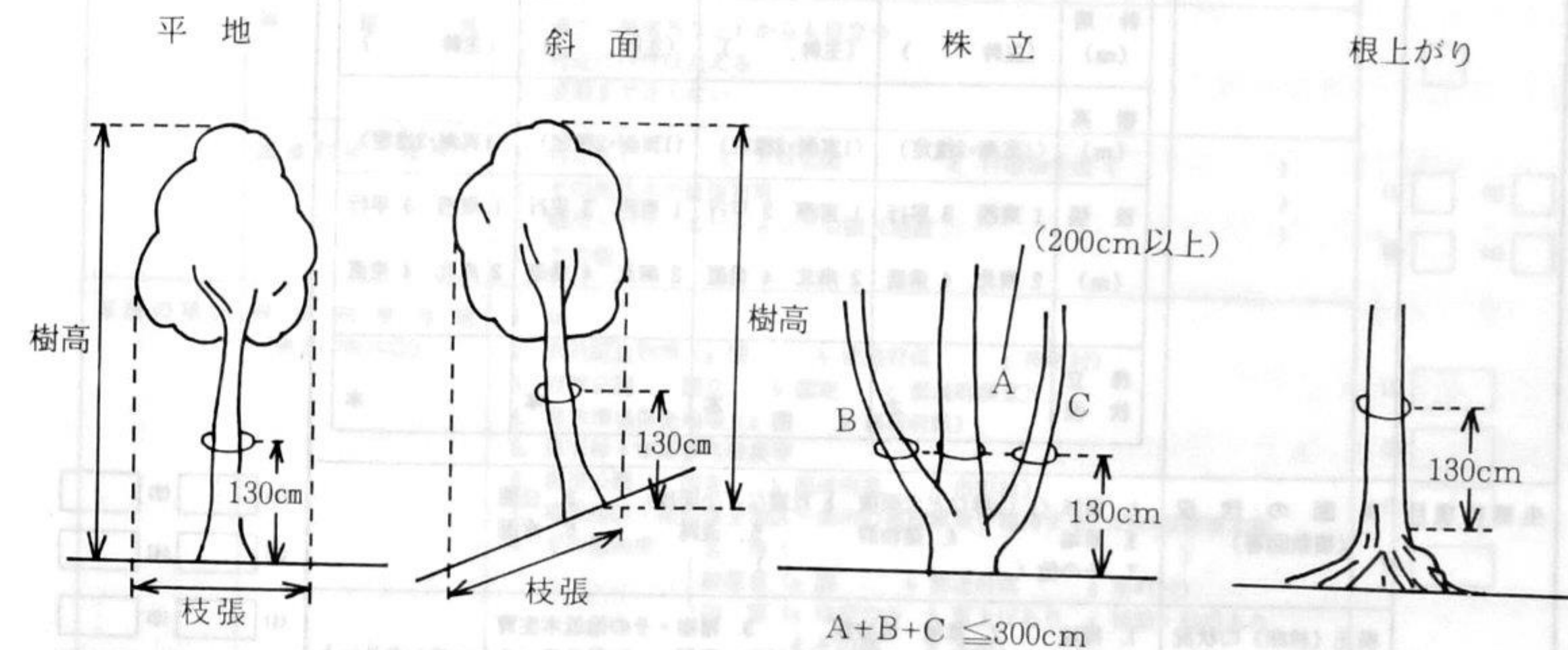
- ⑤ 下部幹折れ……主幹の下方で折れている場合。
- ⑥ 空洞あり……主幹等に空洞のある場合。
- ⑦ 異常なコブあり……大きなコブ等異常なコブのある場合。

(7) 巨木の健全度

当該調査対象が単木の場合には当該巨樹の健全度について、樹林又は並木の場合には、当該巨木林全体の健全度について、下記の状況の有無等から判断する。なお、巨木林全体についての把握が困難な場合には、幹周等の測定樹木周囲の状況でもよいものとする。

- ① 枯死寸前……枯死寸前の状態である。
- ② 一部枯死……枝先等の一部に枯損が見られる。
- ③ 病虫害……病虫害等の症状が表われている。
- ④ 異常落葉……落葉樹で秋期の通常の落葉時期以外にも落葉したり、常緑樹で芽ぶき時期の落葉の量が異常に多いなど、異常落葉が見られる。

(参考図)



巨樹・巨木林調査票

コード番号 [] - [] - []

都道府県コード [] 市町村コード [] 対照コード [] 調査票番号(巨木林) []

調査者名 () 所属 ()

基礎的項目: 巨木(林)の位置, 単木・樹林の別, 所有者(管理者), 樹齢(林齢), 林(並木)内の巨木本数, 巨木測定値 (樹種名, 樹種コード, 幹周, 樹高, 枝張, 株立状況). 生態的項目: 周囲の状況, 根元(林床)の状況, 巨木の欠損, 林木の欠損, 動物生息.

回答番号欄

[]

[]

[]

[]

(1) [] (2) []

(3) [] (4) []

(1) [] (2) []

(3) [] (4) []

欠損 [] []

原因 [] []

欠損 [] []

原因 [] []

鳥類 []

獣類 []

生態的項目: 着生植物等, 巨木(林)の健全度. 人文的項目: 信仰対象等, 独特の呼称・名称, 故事・伝承, 視認性, 直接利用(樹林). 保護的項目: 保護制度指定(単木○樹林◎), 解説板等の有無. その他の項目: 特記事項.

回答番号欄

有無 []

被度 []

種類 []

健全度 [] []

有無 [] (1-5)

内容 [] []

有無 [] (2-4)

内容 [] []

有無 []

有無 []

(1) [] (2) []

(3) [] (4) []

(1) []

(2) []

(3) []

(4) []

[] []

(1) [] (2) []

(3) [] (4) []

(裏面記入 有・無) (幹周既存データ使用 有・無) (記入上の注意及び記入欄は裏面)

2. 巨木の樹種と所在

1) 全国巨木ベスト10の樹種と所在

全国で選ばれた各種樹木別10選の件数で順位をあげ、さらに樹種数をあげて、質の強弱を検討する資料にしたところ、次のような結果があらわれた。但し、第10位まであげるに止める。

第1位 北海道(4種 イチイ、ミズナラ、ハルニレ、ブナ)、第2位 福島県(4種 カヤ、ケヤキ、サクラ、ヒノキ)、第3位 熊本県(3種 イチイガシ、ヒノキ、アコウ)、第4位 長野県(8種 イチイ、スギ、ヒノキ、ブナ、ミズナラ、ケヤキ、サクラ、トチノキ)、第5位 岩手県(5種 モミ、マツ、ハルニレ、イチョウ、カヤ)、新潟県(6種 マツ、スギ、イチョウ、ブナ、ケヤキ、サクラ)、大分県(3種 イチイガシ、ムクノキ、クスノキ)、鹿児島県(5種 クスノキ、スギ、モミ、タブノキ、サクラ)、第9位 宮崎県(3種 アコウ、スギ、ヒノキ)、第10位 山形県(4種 ブナ、サクラ、マツ、ケヤキ)、富山県(4種 トチノキ、イチョウ、ブナ、ミズナラ)、石川県(3種 タブノキ、スタシイ、トチノキ)、山梨県(5種 ケヤキ、イチイ、ヒノキ、ブナ、トチノキ)、岐阜県(5種 スギ、イチイ、ヒノキ、ミズナラ、サクラ)などのことから冷温帯と暖温帯に巨木種が集約する傾向のあることが発見された。(第2表参照のこと)

2) 環境庁の調査所見

a. 樹種別のベスト10の地域的な分布

- ① イチイ、ミズナラ、ハルニレは東日本中心に出現するが、特に北海道に多い。
- ② カシ、アコウ、クスノキは大半が九州に出現し、カシは熊本県に、アコウは鹿児島県に特に多い。
- ③ トチノキは、大半が北陸から若狭湾沿いの日本海側に集中している。
- ④ ブナは、東日本中心に出現するが、上位1、2位は分布の中心よりも南のもの。また、シイは本州、四国に出現するが、3位は、シイの分布北限に近い宮城県があげられる。
- ⑤ カヤは、東北、関東で多く出現し、特に福島県に多い。
- ⑥ ケヤキは、東日本中心、ムクノキは、西日本中心としている。

b. 樹種別ベスト10を立地環境から類型化すると、次の通りである。

- ① (人里主体型) イチョウ、カヤ、マツ、シイ、ムクノキ、ケヤキ、カシ、アコウ、クスノキ、タブ。
- ② (人里～山地型) モミ、スギ、ヒノキ、ハルニレ、サクラ。
- ③ (山地主体型) イチイ、ブナ、ミズナラ、トチノキ。
- ④ 人里主体型及び人里～山地型のものの多くが社寺の境内や城址の立地。特に、シイ、カ

シ、クスノキ、タブ、スギ、ヒノキはその割合が高い。

- ⑤ 保護指定の状況を見ると、山地主体型のもは他の類型と比べ保護指定の割合が低い。
- ⑥ 人里主体型及び人里～山地型のうち、イチョウ、カヤ、ケヤキ、カシ、クスノキ、スギ、サクラ等多くの樹種の大半が保護指定を受けているが、ムクノキ、アコウ、タブ、ハルニレ等、樹種によっては、必ずしも保護指定の割合が高いとはいえない。
- ⑦ 人との関わりとして、信仰対象や故事・伝承の有無を見てみると、人里主体型及び人里～山地型で該当するものが多く、特にイチョウ、シイ、ケヤキ、クスノキ、スギ、サクラが多い。

信仰対象や故事・伝承の多い樹種は、保護指定の割合も高い。

(注) 山間部については、しっかいたくには調査ができなかったため、特に山地主体型の樹種では、ベスト10にかかげた巨木の他にもそれらの幹周を上回る巨樹が存在すると考えられる。

3) 都道府県巨木ベスト3の調査所見

第2表に示す通りであるが、環境庁は次のような所見を発表している。

- ① 各県のベスト3の幹周を比較すると、九州の各県で特に大きい。
- ② ベスト3に多く出現する樹種は比較的限られており、中でもクスノキ、スギ、ケヤキ、イチョウが多い。
- ③ クスノキは、特に近畿以南においてはベスト3の巨木の大半を占めている。
- ④ スギは、岩手県から宮崎県にかけて広範囲の県のベスト3に平均的に出現している。
- ⑤ ケヤキは、秋田県から大阪府にかけて東日本の各県のベスト3に出現している。
- ⑥ イチョウは、青森県から宮崎県にかけての各県のベスト3に出現するが、東日本が中心。
- ⑦ 北海道では、ミズナラ、イチイがベスト3に入り、沖縄県では、ガジュマルがベスト3を占めている。これらの樹種は、他の県では上位に出現しないものであり、両県の自然環境の特徴を表している。

4) 環境庁の総合所見

- ① わが国で、とりわけ幹周が太くなる巨木は、クスノキ、イチョウ、スギ、ケヤキなどである。
- ② わが国の主要な巨木の多くが社寺の境内や社そうに在しており、人里や市街地における巨木の生育場所として社寺が大きな役割を果たしてきたといえる。
- ③ 人里や市街地に残された代表的な巨木は、人とのかかわりも深く、保護の指定がなされているものも多い。しかし、樹種によっては、代表的なものでも保護指定の割合が必ずし

も高くはない。

④ これらの樹種の巨木は、あまり知られずに各種の開発により、姿を消しつつあることが懸念される。また健全性を見ると、保護指定がなされていても、必ずしも健全な状態であるとはいえず、周辺環境の改善が必要なものも多い。

⑤ ブナ、ミズナラ等の巨木は、代表的なものもそのほとんどが山林に存している。これらは森林内にあること、生活域から離れていることなどから、人里のものとは比べ人目に触れにくく、特に保護対象となっていないものが多い。しかし、これらの巨木は、長い時間安定した環境を維持してきた森林の中で生長してきたものであり、豊かな森林の指標としての価値が大きいことに注目すべきである。

⑥ 人里や市街地に残っている巨樹のうち、未だ保護の手だてが講じられていないものは勿論のこと、すでになんらかの手だてがなされているものについても、今後は名木的な価値のみならず、良好な景観の形成、野生動物の生息環境としての価値など、巨木の有する多様な価値を再認識した上で、巨木の生育環境全体の保全、改善、創出を図るため、既存制度の他、ナショナルトラスト、新たな条例等多様な方策による取り組みが必要である。

⑦ 特に、山林に存し、周囲の森林の豊かさの指標でもある巨木については、周辺の自然環境全体を面的に保全していくという視点が必要である。

⑧ 巨木は、周辺地域に住む人たちに身近な自然とのふれあいの場を提供し、また地域のシンボルとして人々の心のよりどころともなるものであり、地域の自然保護教育や潤いのある街づくりなどに積極的に活用されることが期待される。

(注) 日本の森林帯は水平分布でみると、沖縄、小笠原などでは常緑広葉樹のガジュマル、アコウ、ビロウなどの亜熱帯林。九州、四国、本州の西南部には常緑広葉樹のシイ、カシ、タブなどの暖温帯林。本州の東北部から北海道の西南部には落葉広葉樹のミズナラ、トチ、カツラ、ケヤキ、イタヤカエデなどの冷温帯林。この暖温帯と冷温帯の中間的な森林として中間温帯林がある。この林に優占する樹種としてはモミ、ツガ、スギ、ヒノキ、ヒバなどの有用な針葉樹があげられる。

3. 巨木の樹種に対する考察

1) 気候区分による巨木10ベストの考察

都道府県を気候区分によって、下記の如く分割して巨木10ベストを整理して考察を行なった。

○気候区分

A, 冷温帯 — 北海道(1'), 岩手(1)

B, 冷温帯スノーベルト — 青森(2), 秋田(3)と山形(4)の日本海側を除く。

C, 冷温帯内陸 — 福島(5)の内陸部, 栃木(6), 群馬(7), 埼玉(8), 山梨(9), 長野(10), 岐阜(11)

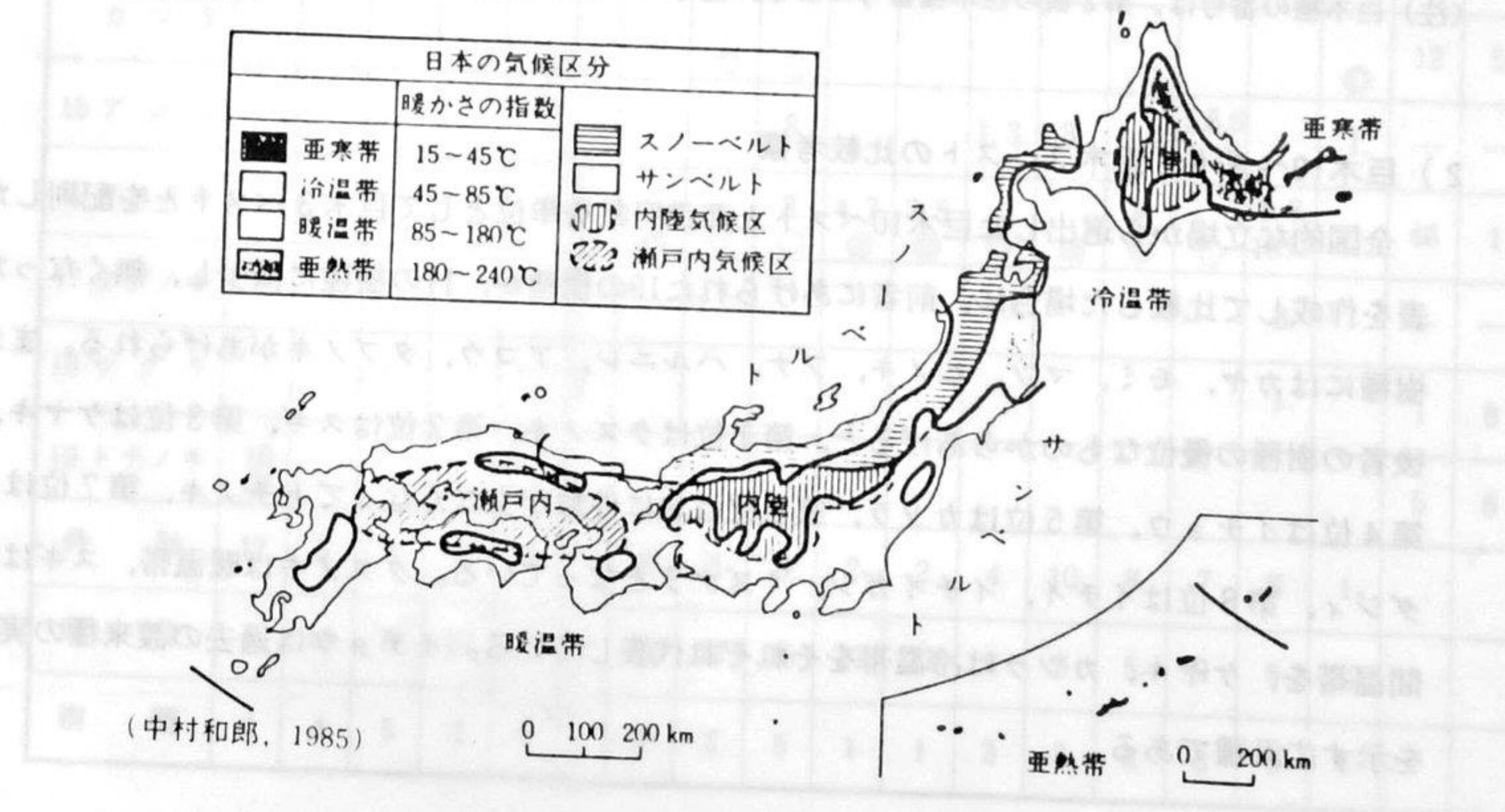
D, 暖温帯スノーベルト — 秋田(3')と山形(4')の日本海岸側, 新潟(12), 富山(13), 石川(14), 福井(15), 京都(16)と兵庫(17)の日本海側, 鳥取(18)

E, 暖温帯サンベルト — 宮城(19), 福島(5')の太平洋側, 茨城(20), 千葉(21), 東京(22), 神奈川(23), 静岡(24), 愛知(25), 三重(26), 滋賀(27), 奈良(28), 京都(16')の日本海側を除く, 和歌山(29), 徳島(30)の太平洋側, 高知(31), 宮崎(32), 鹿児島(33), 熊本(34), 長崎(35), 佐賀(36), 福岡(37), 山口(38)の日本海側, 島根(39)

F, 暖温帯瀬戸内 — 大阪(40), 兵庫(17')と山口(38')の南部, 岡山(41), 広島(42), 徳島(30')の北部, 香川(43), 愛媛(44), 大分(45),

G, 亜熱帯 — 沖縄(46) 太平洋側

○気候区分図



- ① 第1位は、暖温帯サンベルトで32%近くも占め、樹種の種類も多い傾向が見られる。
- ② 第2位は、冷温帯内陸で21%を占め、冷温帯の針葉樹や落葉樹の生育が良好である。
- ③ 第3位は、日本海側の暖温帯スノーベルト地帯で、積雪に弱い常緑樹が少ないが、樹種は豊富である。
- ④ 第4位は、冷温帯と暖温帯類内となっている。前者は針葉樹に、後者は常緑樹の生育に適す。
- ⑤ 第5位は、冷温帯スノーベルト地帯で巨木が少なく、また第6位の亜熱帯では巨木が特に少ない。

第3表 巨木10ベストの気候区分表

気候区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	計	%	順位
A	1	6	1	2	2	—	—	1	5	—	—	6	—	—	—	—	—	—	1	25	13	4
B	2	—	—	1	2	—	—	2	—	—	—	—	2	—	—	—	2	—	—	11	6	6
C	—	4	7	3	—	3	4	3	3	—	—	1	—	6	—	—	—	6	1	41	21	2
D	2	—	1	1	3	2	—	2	2	—	2	—	1	1	—	—	3	1	8	29	15	3
E	3	—	1	1	—	5	6	1	1	7	4	2	4	—	9	9	7	1	—	61	31.5	1
F	2	—	—	3	3	—	—	1	—	3	4	1	6	1	—	1	—	—	—	25	13	4
G	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	1	0.5	7
計	10	10	10	11	10	10	10	10	11	10	10	10	11	10	10	10	10	10	10	193	100	

(注) 巨木種の番号は、第2表の巨木種番号による。但しカツラを除く。

2) 巨木10ベストと巨木3ベストの比較考察

全国的な立場から選出した巨木10ベストと都道府県を単位として巨木3ベストとを配列した表を作成して比較した場合に、前者にあげられた19の樹種が、11の樹種に減少し、無くなった樹種にはカヤ、モミ、マツ、ヒノキ、ブナ、ハルニレ、アコウ、タブノキがあげられる。また後者の樹種の優位なものからあげると、第1位はクスノキ、第2位はスギ、第3位はケヤキ、第4位はイチョウ、第5位はカツラ、第6位は急に件数が少なくなってトチノキ、第7位はスダジイ、第8位はイチイ、イチイガシ、ミズナラとなっている。クスノキは暖温帯、スギは中間温帯を、ケヤキ、カツラは冷温帯をそれぞれ代表している。イチョウは過去の渡来種の実績を示す広汎種である。

第2表 巨木種と番号

気候区分	A	B	A	E	B	F	F	E	E	E	E	E	F	E	E	G	巨木3 ベスト 数	順 位
都道府県 樹種 と番号	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄		
1 イチョウ		1.3. ◎	2 ○	◎							6. ○		7. ○				17	4
2 イチイ	2.4. 5.6. 8.9. ○																1	8
3 カヤ			6														—	—
4 モミ		8	5.8					1.							8.		—	—
5 マツ		6	4.6.			1.3.											—	—
6 スギ			◎		○			3. ○						9. ○	1.8.		32	2
7 ヒノキ							1.				5.8. 9.			2.			—	—
8 ブナ	5																—	—
9 ミズナラ	1.6. 7.7. 10.○																1	8
10 イチイガイ											2.3.4 6.8.8	1.5. 6.○					1	8
11 スダジイ			3.				9.										2	7
12 ハルニレ	3.5. 8.10		2.6.	6.			8.										—	—
13 ムクノキ												1.5. 8.					1	8
14 ケヤキ		9			◎												2	3
カツラ							◎	○								◎	12	5
15 アコウ								8.		1.3.	3.		5.6.6 9.10		1.		—	—
16 クスノキ						◎	◎	8. ○	4.7. ◎	3.5. ◎	◎	◎	6. ○	1.8. 10.◎			46	1
17 タブノキ										10.				3.			—	—
18 サクラ														1.			1	8
19 トチノキ	10 ○																5	6
件数	17	5	8	2	0	2	2	5	2	2	4	10	8	7	8	1		
順位	1	15	5	27	45	7	27	27	15	27	27	9	3	5	9	5	37	
樹種	4	4	5	2	0	1	2	5	1	1	3	3	3	3	5	1		

順位	樹種	市町村名	幹周(m)	所在地	所有者	別称	保護指定	樹齢
1	カツラ	山田村	14.00	今山田	個人	今山田の大カツラ	県天	☞ 700年以上
2	イチョウ	氷見市	12.00	朝日本町	社寺	上日寺の大イチョウ	国天	☞ 1,300年
3	トチ	利賀村	11.89	脇谷	村	脇谷のトチの木	国天	☞ 1,000年
4	スギ	上市町	11.00	早月尾根	国			☞ 300年
4	スギ	利賀村	11.00	坂上	社寺	坂上の大スギ	県天	☞ 700年
4	スギ	福光町	11.00	広谷	社寺	婆々堂スギ、てんぐの大スギ、駒つなぎの大杉	市天	☞ 800年
7	スギ	滑川市	10.30	下梅沢	町内会	立山スギの古木	市天	☞ 300年以上
8	スギ	魚津市	10.00	大沢	個人	大沢の地鎮杉	県天	⊖ 不明
9	トチ	利賀村	9.60	利賀	村	利賀のトチの木	国天	☞ 1,000年
10	ケヤキ	上市町	9.52	若杉	社寺	宮川の大けやき	県天	☞ 300年

4. 富山県巨木の現況

環境庁の巨木調査基準によって提出された内容を第4表にまとめ、その内容を次にあげる。

1) 富山県巨木ベスト10の状況

樹種を順位別に分けると、第1位はスギで5件、第2位はトチで2件、第3位はカツラ、イチョウ、ケヤキの各1件となっていて、スギは優位を占めているが、全国的なレベルでは第5表に示すように抹殺されている。第2位のトチは全国的レベルでは第1位を占めている。

第5表

順位	樹種	市町村名	幹周(m)	所在地	所有者	別称	保護指定	樹齢
1	カツラ	山田村	14.00	今山田	個人	今山田の大カツラ	県天	☞ 700年以上
2	イチョウ	氷見市	12.00	朝日本町	社寺	上日寺の大イチョウ	国天	☞ 1,300年
3	トチ	利賀村	11.89	脇谷	村	脇谷のトチの木	国天	☞ 1,000年
4	スギ	上市町	11.00	早月尾根	国			☞ 300年
4	スギ	利賀村	11.00	坂上	社寺	坂上の大スギ	県天	☞ 700年
4	スギ	福光町	11.00	広谷	社寺	婆々堂スギ、てんぐの大スギ、駒つなぎの大杉	市天	☞ 800年
7	スギ	滑川市	10.30	下梅沢	町内会	立山スギの古木	市天	☞ 300年以上
8	スギ	魚津市	10.00	大沢	個人	大沢の地鎮杉	県天	⊖ 不明
9	トチ	利賀村	9.60	利賀	村	利賀のトチの木	国天	☞ 1,000年
10	ケヤキ	上市町	9.52	若杉	社寺	宮川の大けやき	県天	☞ 300年

2) 全国ランキングの富山県巨木の状況

次にあげる巨木は全国レベルで、順位が10位内選ばれた樹種は6件ある。そのうち3件は国指定を受けているが、その他の樹種としてブナ、ミズナラが出たことは、立山連山地帯に大変すぐれた天然林が分布することの証左ともいえる。また、トチ巨木の所在が全国的レベルで注目を浴びていることは、県民として忘れてはならない樹種である。

第6表

樹種	幹周(m)	市町村名	別称	保護指定	全国順位	樹齢
イチョウ	12.00	氷見市	上日寺の大イチョウ	国天	7位	☞ 1,300年
ブナ	5.00	大山町			10位	☞ 200~299年
ミズナラ	8.20	利賀村	島地宮林 (樹林)		2位	☞ 100~190年
トチノキ	11.90	利賀村	脇谷のトチの木	国天	2位	☞ 1,000年
トチノキ	9.60	利賀村	利賀のトチの木	国天	6位	☞ 1,000年
トチノキ	9.00	朝日町	踏出しのトチの木	保安林内	9位	☞ 300年以上

3) 富山県の巨木樹種と立地環境

富山県であげられた巨木樹種は31種で、第1位はスギ、第2位はケヤキ、第3位はイチョウ、第4位はマツ、第5位はトチノキ、第6位はブナ、第7位はサクラ、ミズナラ、第9位はエノキ、第10位はスダジイの順であげられる。

これらの巨木樹種で、第1位のスギは神社仏閣の境内、さらに山地の天然林の中にある。第2位のケヤキも同じである。第3位のイチョウは神社仏閣の境内のみ、第4位のマツの巨木は各地に点在し、由緒を持ったものが多い。第5位のトチノキ、第6位のブナは山地に多く、未発表の巨木も残在している。第7位のサクラは神社の境内に多く、主にエドヒガンである。第7位のミズナラは山地に多く、材質が重く、巨大であるために伐採をまぬがれたものが多い。第9位のエノキは河川の舟つき場、橋詰などにあつて、憩いの場、道標としての役を果している。第10位のスダジイは主に神社の境内にあつて、鎮守の杜の聖域としての役を果している。

とやま森林浴の森

富山県では広く県民が気軽に優れた自然に浸りながら、体や心をいやし、明日への活力を旺盛にすることのできる森林浴の森が50ヶ所「とやま森林浴の森」として選ばれている。これらの野外活動を通して、巨木に触れることも有意義なことで、次に紹介する。

- ①あさひ城山一朝日町、②三峯グリーンランド一朝日町、③舟見ふるさとの森一入善町、④松尾金毘羅社の森一宇奈月町、⑤嘉例沢森林公園一黒部市、⑥天神山一魚津市、⑦升方城址一魚津市、⑧行田公園一滑川市、⑨さつか・おおやま一上市町、⑩馬場島一上市町、⑪大観峰自然公園一立山町、⑫大辻山山麓森林公園一立山町、⑬称名溪谷一立山町、⑭立山美女平一立山町、⑮あわすの平一大山町、⑯ありみね一大山町、⑰浜黒崎海岸松林一富山市、⑱呉羽丘陵一富山市、⑲古洞森林水公園一富山市、⑳長沢自然公園一婦中町、㉑寺家公園一大沢野町、㉒猿倉山森林公園一大沢野町、㉓常虹の滝一細入村、㉔城ヶ山公園一八尾町、㉕21世紀の森一八尾町、㉖牛岳青少年の森一山田村、㉗太閤山ランド一小杉町、㉘薬勝寺池公園一小杉町、㉙櫛田神社一大門町、㉚二上山一高岡市、㉛太田自然休養村の森一高岡市、㉜三千坊の森一高岡市、㉝阿尾森林公園一氷見市、㉞森寺城跡公園一氷見市、㉟西山森林公園一福岡町、㊱城山メルヘンの森一小矢部市、㊲くりから史跡の森一小矢部市、㊳となみ増山城跡公園一砺波市、㊴県民公園頼成の森一砺波市、㊵グリーンシャワーの降る森一庄川町、㊶閑乗寺公園一井波町、㊷安居の森一福野町、㊸つくばね森林公園一城端町、㊹桜ヶ池公園一城端町、㊺医王山一福光町、㊻刀利自然休養林一福光町、㊼中村合掌文化の村一利賀村、㊽ロンレー東山の森一利賀村、㊾五箇山合掌の森一平村、㊿ブナオー上平村

第4表

樹種	市町村	富山市	高岡市	新湊市	上平村	利賀村	庄川町	井波町	井口村	福野町	福光町	福野町	樹種別本数	樹種別順位
イチョウ		5	7	1	1					2			28	3
ケヤキ													2	15
ラカンマキ			1	1									2	15
モミ													4	11
カラマツ													2	15
マツ		9			1								19	4
ゴヨウマツ													2	15
コウヤマキ													0	0
スギ		23	12		9		5			10			172	1
ヒノキ													0	0
ブナ													11	6
コナラ													2	15
アカガシ													2	15
ウラジロガシ		1											2	15
スダジイ		1	1	2									6	10
ケヤキ		10	12		5					3			65	2
エノキ		1		3									7	9
カツラ													4	11
タブノキ													3	14
ブラタナス		2											2	15
サクラ			1										8	7
イヌザクラ			2										2	15
ウワミズザクラ													1	24
アオナシ													1	24
サイカチ													1	24
カエデ			2										4	11
トチノキ					3								16	5
シナノキ													1	24
サルスベリ													1	24
ツバキ													1	24
ミズナラ													8	7
樹種別本数		52	38	7	19	0	5	0	0	15	0	0	379	
樹種別順位		2	3	13	9	22	22							

第 4 表

富 山 県 巨 木 樹 種 別 一 覧 表

樹種	市町村	富山市	高岡市	新湊市	魚津市	氷見市	滑川市	黒部市	砺波市	小矢部市	大沢野町	大山町	舟橋村	上市町	立山町	宇奈月町	入善町	朝日町	八尾町	婦中町	山田村	細入村	小杉町	大門町	下村	大島町	城端町	平村	上平村	利賀村	庄川町	井波町	井口村	福野町	福光町	福野町	樹種別本数	樹種別順位			
イチヨウ		5	7	1		1	3				2						1				1							4	1									28	3		
カヤ					1														1																				2	15	
ラカンマキ			1	1																																			2	15	
モミ														1									1						2										4	11	
カラマツ												2																											2	15	
マツ	9							1			1						5	1										1	1										19	4	
ゴヨウマツ																																							2	15	
コウヤマキ																																							0	0	
スギ	23	12		2	5	2	1				2	36		3	5		3	3			1		18				21	11	9		5			10				172	1		
ヒノキ																																							0	0	
ブナ													3						7																				11	6	
コナラ												2																												2	15
アカガシ												2																												2	15
ウラジロガシ	1																1																							2	15
スダジイ	1	1	2		1																		1																	6	10
ケヤキ	10	12				5	1				1	11		1			5	1	2								3	3	5						3				65	2	
エノキ	1		3								1	1					1																							7	9
カツラ												1									1																			4	11
タブノキ					1												2																							3	14
ブラタナス	2																																							2	15
サクラ		1			2											1	1	1									1	1												8	7
イヌザクラ		2																																						2	15
ウワミズザクラ																							1																	1	24
アオナシ																											1													1	24
サイカチ																			1																					1	24
カエデ		2													1													1												4	11
トチノキ												2				4		5											2	3										16	5
シナノキ																	1																							1	24
サルスベリ							1																																	1	24
ツバキ					1																																			1	24
ミズナラ																		8																						8	7
樹種別本数		52	38	7	3	11	10	4	0	0	7	60	0	5	6	5	20	30	4	0	3	0	23	0	0	0	27	25	19	0	5	0	0	0	15	0	0		8	7	
樹種別順位		2	3	13	18	11	12	17			13	1		18	15	16	8	4	18		21		7				5	6	9	22	22								379		